

ため、NHK朝の連続テレビ小説「マッサン」が平成26年に放映され、改めて注目を集めている余市町の取り組み事例等について調査を行いました。



*余市蒸留所前にて

③一般財団法人さつぽろ産業振興財団（北海道札幌市）
中小企業支援、創業支援、人材育成、産業振興施設の利用状況及び各事業の連携の観点から、一般財団法人さつぽろ産業振興財団の取り組み事例等について調査を行いました。

文教警察常任委員会

◎文教警察常任委員会委員
委員長：岸善一郎、副委員長：高橋正
委員：中沢文一、松本耕司、新井雅博、
福重隆浩、後藤克己、酒井宏明、
川野辺達也、本郷高明

◎県内調査

★平成27年8月25日(火)

①群馬県立館林特別支援学校（館林市）
現在の教室の利用状況及び改築工事に係る考え方や改築予定場所等について調査を行いました。

②史跡上野国分寺跡（高崎市）
「史跡上野国分寺跡」の発掘調査の現状等について調査を行いました。

◎県外調査

★平成27年9月1日(火)～3日(木)

①山口県教育委員会（山口県山口市）
地域の教育力の向上・地域の活性化を図り、もって地域教育力日本一の実現を目指す

「やまぐち型地域連携教育推進事業」としての取り組みについて調査を行いました。
②山口市立白石小学校（山口県山口市）
中学校におけるコミュニケーション能力の基礎の育成にもなる取り組みである小学校5・6年生の外国語活動及び教科化への対応、また外国語活動に対する研究成果やその後の外国語活動の状況等について調査を行いました。



*山口市立白石小学校にて

③福岡県立筑豊高等学校（福岡県直方市）
専門高校生の実践力育成のための取り組み状況などについて調査を行いました。

④福岡県警察本部（福岡県福岡市）
通称「暴排先生」と呼ばれる専門の職員が、暴力団の実態等を中学生や高校生に分かりやすく伝え、福岡県内のほぼ全ての中学校、高等学校等において、年1回以上の暴力団排除教育を実施しています。暴力団排除教育の推進に係る全国初の取り組みについて調査を行いました。

特別委員会（総合計画に関する特別委員会、家庭教育の支援・こどもの未来に関する特別委員会、観光・世界遺産に関する特別委員会、危機管理対策特別委員会）も必要に応じて、県内・県外で調査を行っております。委員会の県内調査・県外調査の状況は、県議会ホームページにアップされております。ご覧ください。

質疑及び一般質問

平成27年9月17日、18日、25日に開催された質疑及び一般質問では、次の議員が質問を行いました。

質疑及び一般質問は、1年間3回の定例会で基本的に、全議員が1度ずつ行う予定です。質疑及び一般質問をしていない議員については、次回以降行う予定です。
◎質疑及び一般質問の中から一部を掲載します。

9月17日(木)

◎県道高崎神流秩父線の「岩崎交差点」について

自由民主党 橋爪 洋介
富岡方面から高崎方面に向かう交通が特に多いため、左折専用車線を設ける事で渋滞改善に効果があると思われませんが、県の見解についてお聞かせください。

A 県で、今年1月に岩崎交差点付近の交通量調査を行い、朝の時間帯に交差点の西側で最大1.5kmの渋滞が確認されています。この時間帯の交差点への交通量は、富岡方面から交差点に流入する交通量のうち、約6割を占めております。このため、左折専用車線の追加は、渋滞の改善に効果があると、県としても考えており、地元自治会等にも協力をいただき、地権者や関係者と協議を開始したところであります。

◎持続可能な県政運営での地域モビリティの持続可能性について
リベラル群馬 後藤 克己

Q まちのまとまりをコンパクトにして公共交通でつながりという、まちづくりビジョンと一体となった、しっかりとした公共交通のビジョンを打ち出すべきであると考えていますが、その方針をお聞かせください。

A 県では「ぐんままちづくりビジョン」を策定し取り組んでおり、その中で公共交通と一体となったまちのまとまりを作らなければいけないと考えております。公共交通の計画策定に当たり、さまざまな利用形態や需要の把握のため、本年11月に

パースントリップ調査を行います。その結果を分析し、県としての公共交通マスタープラン、先ほどのビジョンに当たるような計画づくりを行って参りたいと考えています。

◎本県の次世代自動車導入推進について

自由民主党 井田 泉
環境に優しい次世代自動車が目立っていますが、本県も次世代自動車の普及を推進していく必要があると思いますが、普及状況はどうでしょうか、お伺いします。

A ハイブリッド車や電気自動車など、いわゆる次世代自動車の県内普及率ですが、平成19年度末の登録台数は、八千二百五十五台でしたが、平成26年度末現在で十萬四千四百三十二台と、7年間で約13倍に増加しており、現在の普及率は、9.7%となっております。

また、平成26年度の乗用車の新車販売台数に占める次世代自動車の割合は30.3%となっております。

◎前橋と高崎をつなぐ、LRT（次世代型路面電車システム）の検討について
公明党 福重 隆浩

Q 高崎駅東口から高崎市産業団地や、前橋みなみモールなどの拠点施設等を経由して、中央前橋駅まで結ぶルートにLRTを走らせる等、公共交通機関のあり方や構想をご検討いただければと思っておりますがいかがでしょうか。

A 高崎駅、中央前橋駅と、コンベンションや前橋みなみモールなどの集客施設、日赤等の医療機関や産業団地などの拠点施設を、LRTなどの公共交通によって結ぶことは、自動車交通から公共交通への転換による市街地の渋滞緩和など集客効果以外にも大きな効果があると考えられます。この地域にふさわしい公共交通手段について今後とも研究して参りたいと考えています。

◎障害者福祉施策について
自由民主党 臂 泰雄

Q 知事がこれまでに取り組まれた障害者福祉施策と成果について、そしてこれからの任期の中で取り組もうとされる施策についてお伺いします。

A この4月に県内すべての地域に特別支援学校を設置し教育環境が整ったと考えています。今後は、特別支援学校の高等部の設置を進め、教育の更なる充実を図り、障害のある方々が希望や適性に依りて働き、作業することができるよう一般就労や福祉的就労の場の確保に全力で取り組む考えです。障害の有無に関わらず、誰もが住み慣れた地域で安心・安全に生活し、生涯にわたり生き生きと活躍できる社会づくりを進めて参りたいと考えております。

◎コンベンション施設整備計画の賛否を県民へ問うことについて
日本共産党 伊藤 祐司

Q コンベンション施設建設には、根強い批判があり、巨額を投じる後戻りできない開発です。知事が群馬の未来のためにどうしても必要というならば、基本計画が改訂される今こそ、施設の整備計画そのものについて、県民に賛否を問うべきと考えますが、お伺いします。

A コンベンション施設の整備は、本県の将来にとって極めて重要な施策であり、県民アンケートを始めとした様々な調査や長期間にわたる議会等での議論を積み上げて参りました。引き続き、施設の意義や必要性について丁寧な説明に努め、様々な機会に県民の意見に耳を傾けながら進めていきたいと考えています。

◎認知症疾患医療センターについて
自由民主党 穂積 昌信

Q 現在、県内には認知症疾患医療センターが整備されていない圏域が複数あります。高齢者人口の多い太田館林圏域での認知症疾患医療センターの整備について、県の所見をお伺いします。

A 認知症疾患医療センターは、鑑別診断や入院治療などの専門的医療機能と医療・介護関係者への研修や認知症の地域への普及啓発などの地域連携機能を有する医療機関です。認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らすため、全ての圏域に

